

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■新規就農者・研修生 JAめぐみの集合研修

JAめぐみの管内の研修拠点等の研修生は、主に実技中心の実践研修をしており、それを補完する講義として集合研修が開催されている。

1月は毎週金曜日午前に「農業機械」「農業経営」等の講義が行われ、農業普及課ではその開催を支援した。「農業機械」の講義では、実際に管理機やトラクタのオイル交換の実習やメンテナンスの実演が行われた。

受講生は毎回10名程度で、オンラインでの参加者もあるが、熱心にメモを取るなど意欲的に取り組んでいる。

農業普及課では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、集合研修や新規就農者への重点巡回指導などに取り組んでいく。(地域支援係)



【農業機械の実習】

### ■就農希望者 就農相談

1月20日、関市役所にて、就農希望者の面談を関市、JAめぐみの、中濃農林事務所が連携して行った。

相談者は、主に水稻を栽培する認定農業者のご子息で、この度新規品目の導入を伴って経営継承する意向で、機械導入の希望もあった。関係機関で協議し、補助事業の活用や手続きの方法等について提案し、経営継承に向けて引き続き検討していくこととなった。

農業普及課では、貴重な農業後継者の円滑な経営継承に向けて、関係機関と連携しながら支援していく。(地域支援係)

### ■新規就農者 ほ場確認及び土壌硬度測定支援

関市の新規就農者(水稻および露地野菜栽培)から、令和4年産作付けにあたり、土壌硬度の測定依頼があった。

1月19日、農業普及課にて新規就農者のほ場確認を行い、ほ場8筆について山中式土壌硬度計を用いた土壌硬度測定を行った。同一集落内のほ場ではあったが、ほ場ごとに作土深や土壌硬度に差があったため、ほ場ごとの管理のポイントについて助言を行った。

農業普及課では、栽培技術指導などを通じて、新規就農者の営農定着に向けて関係機関と連携して支援していく。(地域支援係)



【土壌硬度測定】

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■水稻(採種) 「ほしじるし」種子増産に向けた説明会

水田面積が減少する中、水稻種子の需要も減少している状況であるが、業務用にも対応した多収性品種「ほしじるし」の需要が高まっており、令和4年産種子の増産について、県内唯一の種子産地である(農)美濃種子に対して打診があった。

農業普及課は、(農)美濃種子およびJAめぐみの等関係機関と協議を重ねた結果、令和3年産「ほしじるし」種子作付面積858aから、令和4年産は要望に沿って16ha規模を確保することとし、「ハツシモ岐阜SL」からの作付転換を行うこととした。

1月13日に(農)美濃種子による組合員向け説明会が開催され、農業普及課も出席した。説明会にて作付転換について組合員からの同意が得られ、「ほしじるし」を増産する作付計画を組み立てることとなった。

農業普及課では、水稻優良種子の確保のため、新たに「ほしじるし」を栽培する生産者を中心に栽培指導を行うとともに、適正なほ場審査及び生産物審査を実施し、優良種子を確保していく。

(地域支援係)

## ■有機農業実践者 実態調査およびアンケート

国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料システムの構築や環境負荷軽減の取り組みを打ち出した。環境保全に関しては、化学農薬・化学肥料のリスク低減や有機農業の拡大を目指している。

農業普及課では、これまで管内の有機農業の実態を十分に把握していなかったため、有機農産物の実態調査および生産者アンケートを実施することとした。12月～1月にかけて、管内11農産物直売所を訪問し、有機農産物の出荷状況を確認した。この結果、精米、大豆、いも類など8アイテム確認された。また、有機農業実践者に対してアンケート調査を実施し、これまでに8戸から回答を得た。主な経営品目は、水稻6戸、露地野菜1戸、果樹1戸となっており、現在の経営規模や今後の意向、販売方法、経営の課題、期待する支援策などについて聞き取りした。

農業普及課では、今後も管内の有機農業の実態を把握することに努め、有機農業実践者への指導・支援方策の検討などにつなげていくこととする。(地域支援係)

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■いちご 岐阜県いちご共進会地方審査

1月31日、中濃いちご生産組合（組合員14名）から推薦された2戸で第47回岐阜県いちご共進会の地方審査が実施された。地方審査長である中濃農林事務所長と審査員の農業普及課職員等が、ほ場にて生育状況や管理状況を審査した。

今回の審査対象2戸は「濃姫」の土耕栽培であったが、いずれも天候等に合わせて適正に栽培管理されていた。

今後は出荷販売実績や出荷物の実物審査が行われ、総合点数により入賞者が決定される。中濃いちご生産組合から入賞者が選出され、地域の模範農家として活躍することが期待される。(地域支援係)



【審査の様子】

### ■夏秋なす 個別面談研修会

今年度の夏秋なす生産を反省し、次期栽培計画に繋げるため、1月25～26日に中濃夏秋茄子生産出荷組合の個別面談研修会が開催され、JA担当者、農業普及課が各生産者と3者面談を行った。

農業普及課では、JAから提供された個人出荷実績、栽培・防除日誌等を基に生産者ごとに研修資料を作成し、収量・施肥実績などを説明した。また、土壌診断データから診断結果を解説し、次作ほ場の土壌改良処方箋を作成して土壌改良資材施用量を提案するとともに、病害虫対策等の栽培管理について次年度用防除暦にて指導を行った。

生産者からは、土壌診断結果の見方、つやなし果対策など様々な質問が出され、次年度作への意欲の高さがうかがわれた。今後も引き続き、夏秋なす生産者の所得向上に向けて生産出荷組合を支援していく。(地域支援係)



【面談会場】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■武儀地区農業婦人クラブ 和菓子加工研修会

1月20日に、関市のふる里農園美の関において、武儀地区農業婦人クラブ連絡協議会が和菓子加工研修会（桜餅）を開催し、会員11名が参加した。

この研修会は、農村女性が培ってきた生活技術等の伝承と会員相互の交流を目的としており、会員のふる里レディースが講師となって加工方法等について研修を行った。

農業普及課では今後も引き続き、地元食材の活用や食の伝承を目的とする地域活性化活動を支援していく。(地域支援係)



【研修会の様子】